

埼玉県環境科学国際センター 嶋田知英、島田勉、NPO 法人自然観察指導員埼玉 小峯 昇

地域の生物多様性保全には、地域の生物群集の変動を把握することが必要であり、長期モニタリングが欠かせない。鳥類は高次消費者であり、また、比較的同定が容易なことからモニタリング対象に適しており、環境指標生物として重要だと考えられる。鳥類モニタリングは研究者だけではなく、野鳥愛好家など様々な主体により行われ、探鳥会の記録なども含めると事例は多いが、特定の観察者による長期モニタリング事例は多くは無い。

報告者の一人である島田は、1960年台後半から埼玉県内各地で鳥類のモニタリングを独自に開始し、現在も埼玉県内10箇所以上で継続的に調査を行っている。ここでは、そのうち山岳森林地域を対象とした、秩父市熊倉山周辺における39年間に及び鳥類調査についてその概要を報告する。



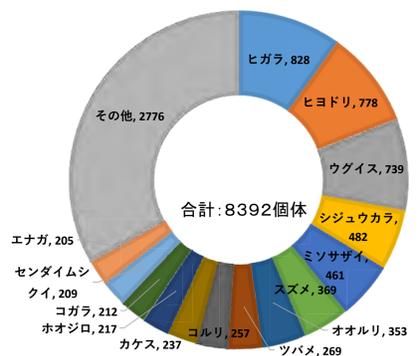
調査地の概要と調査方法

- 調査地である熊倉山は、埼玉県西部奥秩父山域に位置し、植生はスギ・ヒノキの人工林にブナ・イヌブナ等の天然林が混在している。
- 鳥類調査は1977年7月から開始し、毎年、繁殖期である5月下旬から7月上旬に、1～2回センサスを実施した。
- 調査地点は、秩父鉄道白久駅を起点とし、熊倉山山頂(標高1426m)を抜け武州日野駅に至る約15kmの登山道におけるラインセンサスと、途中通過する営林署谷津川小屋跡と、熊倉山山頂におけるスポットセンサス(早朝、調査時間30分)として行った。
- 1977年から2015年までの調査回数は、ラインセンサスが38回、営林署谷津川小屋スポットセンサスが64回、熊倉山山頂スポットセンサスが42回である。
- 全ての調査は、鳥類観察経験が豊富な島田が一人で行っており、得られたデータの精度と均一性は高い。

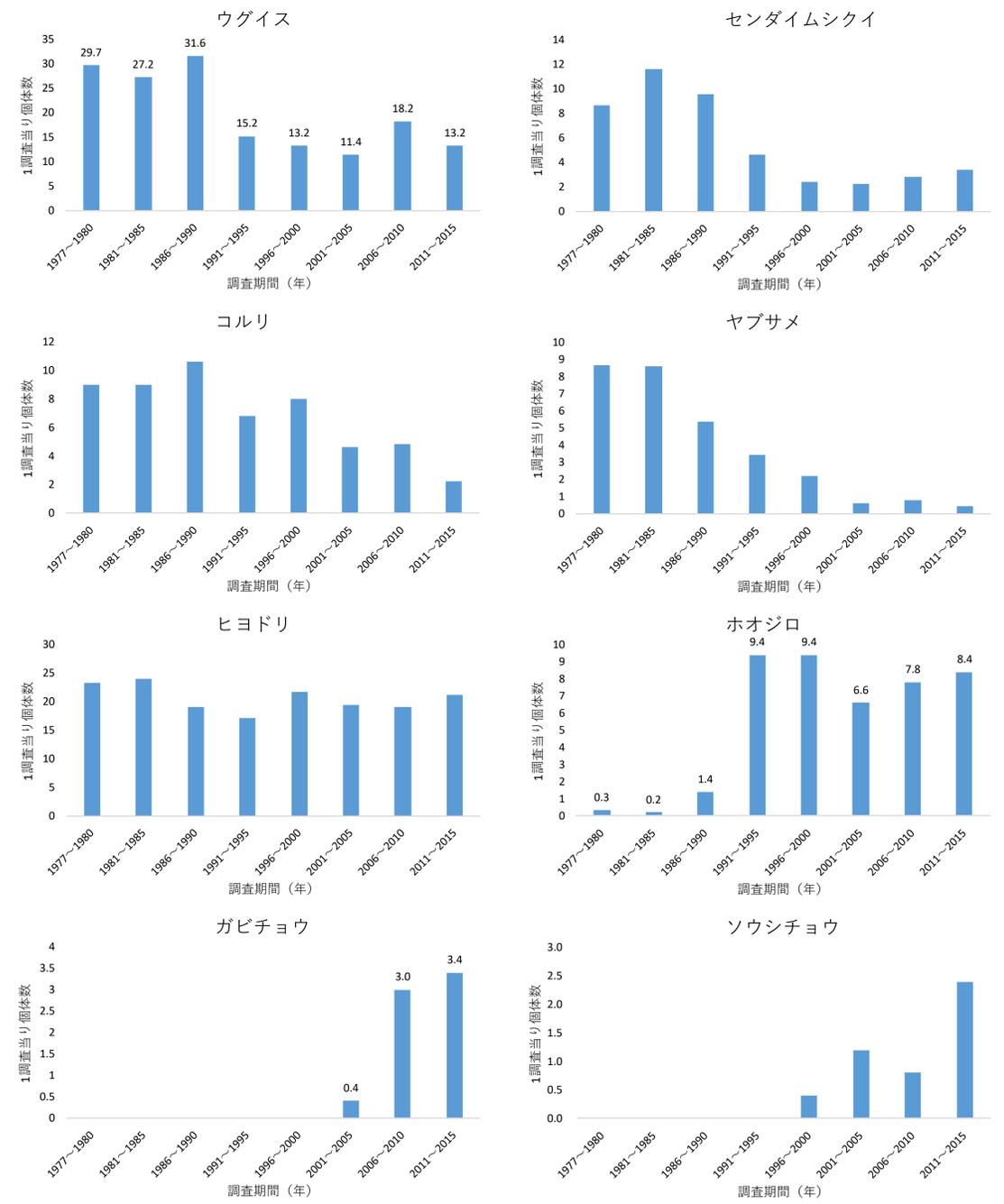


調査結果

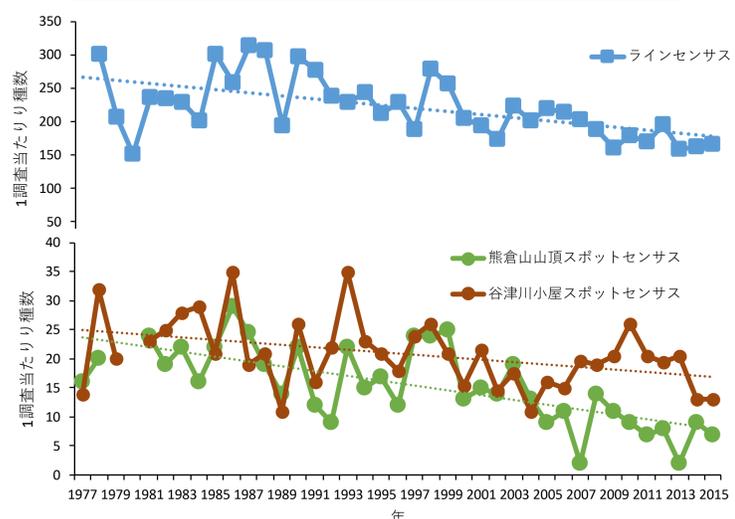
全期間種別確認個体数（ラインセンサス）



主な種の期間別1調査当り確認個体数（ラインセンサス）



1調査当り確認個体数の推移



1調査当り確認種数の推移

